

一般国道2号笠岡バイパス盛土変状対策検討会（第2回） 議事概要

1. 日時 : 令和6年10月1日（火）14:00～16:30

2. 場所 : 岡山国道事務所 3階会議室

3. 出席者

◎西山 哲 岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域 教授

佐藤 丈晴 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科 教授

松岡 弘久 国土交通省中国地方整備局道路部特定道路工事対策官

<事務局>

※敬称略 ◎会長

国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所

4. 議事

- ・盛土変状箇所の対策工法

5. 議事概要

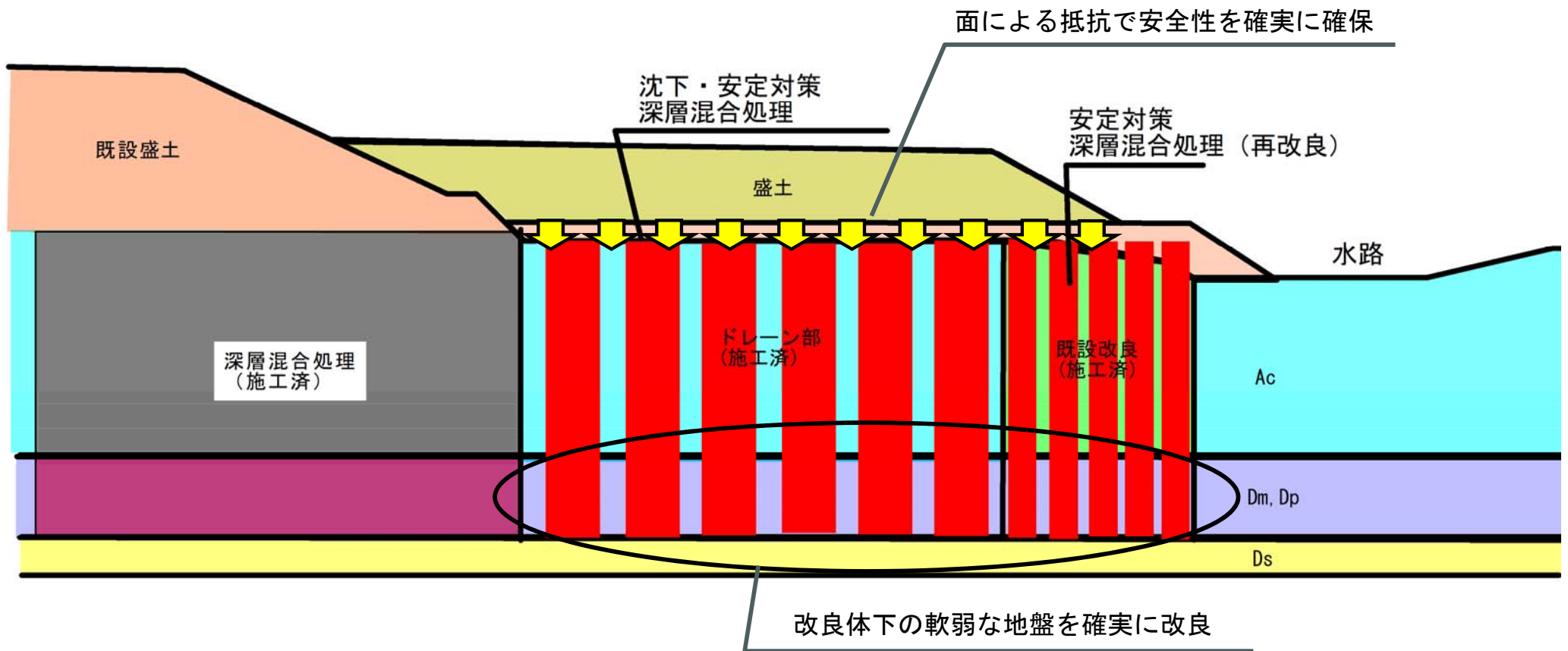
- ・第1回検討会で検討された変状要因を基に対策工の検討を行った。
- ・この要因に対しては、改良杭部の安定対策として粘土層下端部まで再改良し、さらにドレーン部の沈下安定対策として大口径の深層混合処理工法で再改良する工法が適すると考えられた。
- ・あらためて、この工法の経済性、施工性、安定性を検討した結果、最適な対策であると結論づけた。
- ・また、盛土変状箇所の前後区間についても、支持力層の状況を追加の地質調査により確認した上で、追加対策を検討する必要があると意見集約した。



【写真①】検討会の状況

○対策工法の選定

- ・ 盛土に変状があった箇所は、地盤改良体の下層に木質・有機物などを多く含む軟弱な地盤が堆積していたこと、水路に近い位置にあるため水路部下層の軟弱な粘性土が近接していたことが変状の要因であると考えられる。
- ・ この要因に対しては、改良杭部の安定対策として粘土層下端部まで再改良し、さらにドレーン部の沈下安定対策として大口径の深層混合処理工法で再改良する工法が適すると考えられた。
- ・ あらためて、この工法の経済性、施工性、安定性を検討した結果、最適な対策であると結論づけた。



対策工法について (イメージ図)

参考) 盛土の変状の発生状況

○笠岡バイパスにおいて、路体盛土施工中に延長約100m、幅約40mの範囲で盛土に変状が発生。(令和6年1月11日)

